

**製品名: Cdc25B (リン酸化Ser323) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04421**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CDC25B
別名	CDC25B; CDC25HU2; M-phase inducer phosphatase 2; Dual specificity phosphatase Cdc25B
遺伝子 ID	994.0
SwissProt ID	P30305
免疫原	抗血清は、ヒト CDC25B の Ser323 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 289-338

**背景**

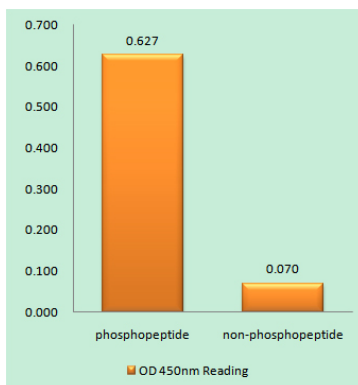
細胞分裂周期 25B (CDC25B) ホモサピエンス CDC25B は、CDC25 ファミリーのホスファターゼの一つです。CDC25B は、サイク

リン依存性キナーゼ CDC2 の 2 つのリン酸基を除去することで活性化し、有糸分裂の開始に必須です。CDC25B は、核局在および核外輸送シグナルにより、核と細胞質の間を移動します。このタンパク質は細胞周期の M 期および G1 期には核内に存在し、S 期および G2 期には細胞質へ移動します。CDC25B は発癌性を有しますが、腫瘍形成における役割は未だ解明されていません。この遺伝子には複数の転写産物バリエーションが存在します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。 ,酵素調節: B 型サイクリンによって刺激される。 ,機能: チロシンタンパク質ホスファターゼは、用量依存的に有糸分裂進行を誘導する。CDC2 を直接脱リン酸化してキナーゼ活性を刺激する。3 つのアイソフォームはそれぞれ異なる活性レベルを示す。 ,PTM: in vitro において BRSK1 によってリン酸化される。CHEK1 によってリン酸化され、CHEK1 はこのタンパク質の活性を阻害する。 ,類似性: MPI ホスファターゼファミリーに属する。 ,類似性: 1 つのロダネーゼドメインを含む。 ,

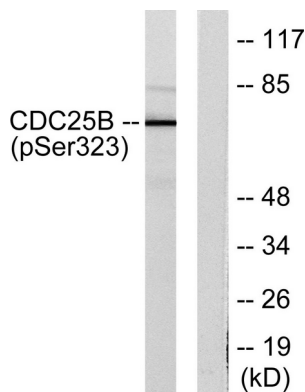
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

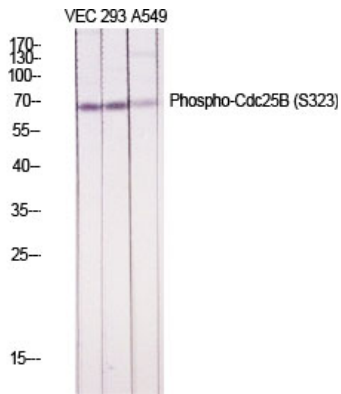
## 画像データ



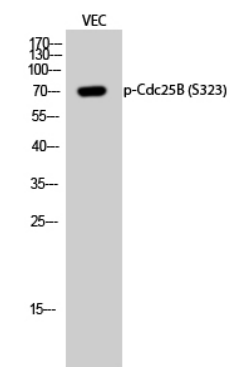
CDC25B (リン酸化 Ser323) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



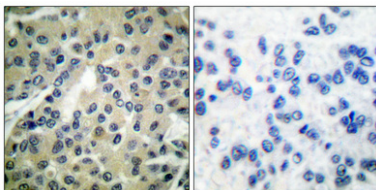
PMA 125 ng/ml 30 分処理した NIH/3T3 細胞のライセートを CDC25B (リン酸化 Ser323) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Cdc25B (S323) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。



リン酸化 Cdc25B (S323) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた VEC 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。